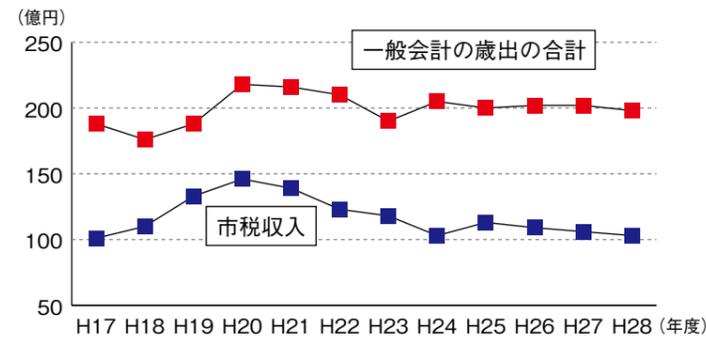


決算経過

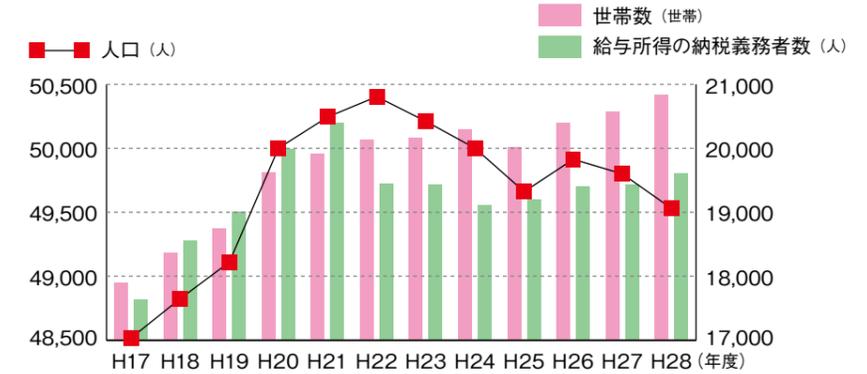
亀山市は、今後の市税の減収や普通交付税の段階的な減額が見込まれる中で、創意工夫の行政運営が求められています。

一般会計の歳出の合計と市税収入の推移



人口・世帯数・納税義務者数の推移

※人口と世帯数は4月1日現在
※給与所得の納税義務者数は7月1日現在



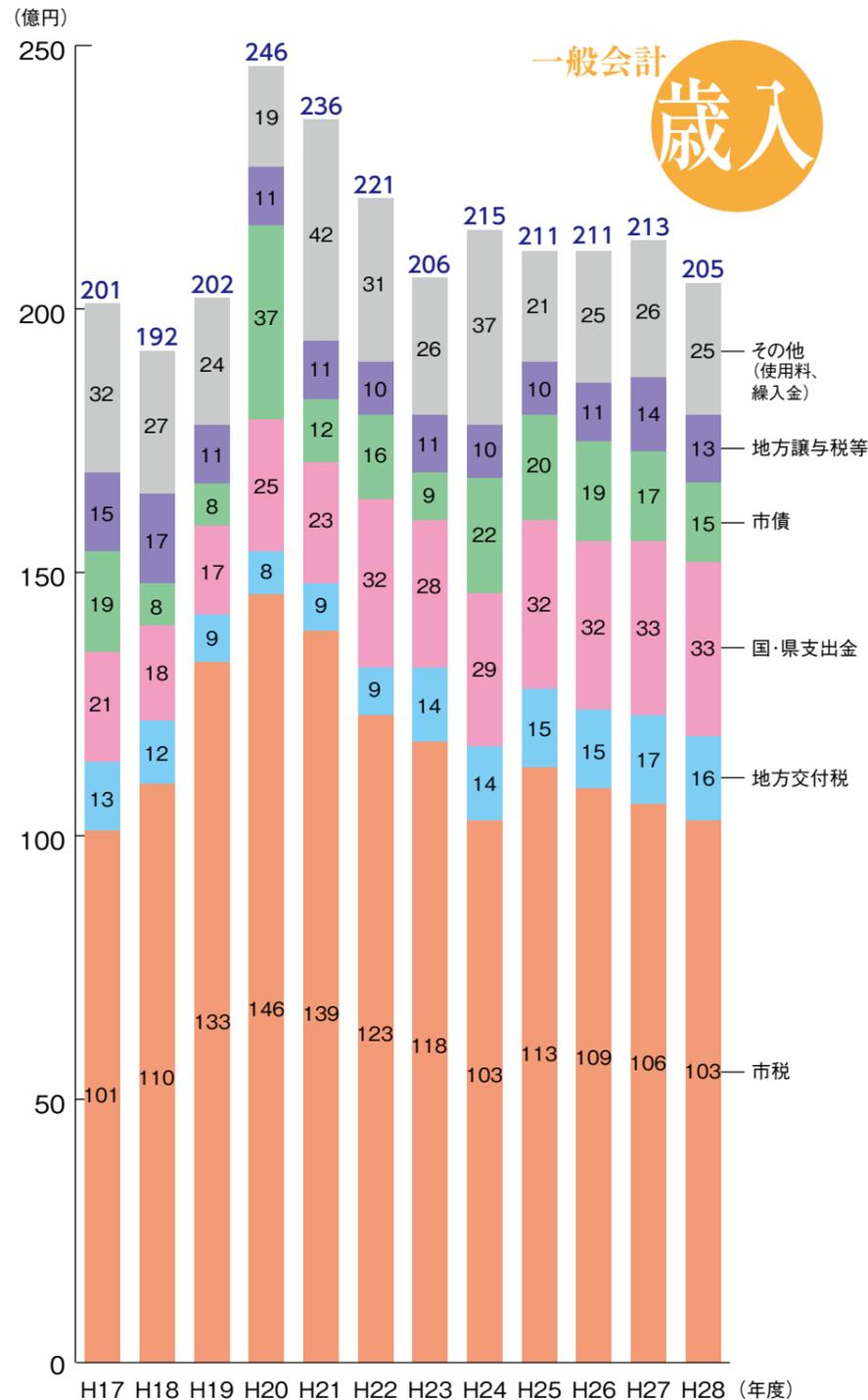
歳入の経過

人口はほぼ5万人で推移していますが、市税収入は平成20年度の146億円をピークに平成24年度まで減り続け、平成25年度決算では113億円と一時増収となった以降は減少し、平成28年度決算では103億円と前年度より約3億円の減収となりました。今後も引き続き厳しい状況が続くことが予想されます。

また、国・県支出金は33億円、地方交付税は16億円、地方譲与税等は13億円となり、前年度と比較して2億円減となりました。

市債(借金)は、し尿処理施設長寿命化事業、学校教育施設整備事業などの財源を借り入れましたが、前年度より2億円減の15億円となりました。

その他の収入は、使用料や繰入金などで25億円、前年度より1億円の減となりましたが、公共下水道事業の企業会計化に伴う繰出し財源としての繰入金が減となったことが主な要因です。



歳出の経過

人件費については、前年度並みの38億円となりましたが、扶助費については、前年度より3億円増の37億円となりました。

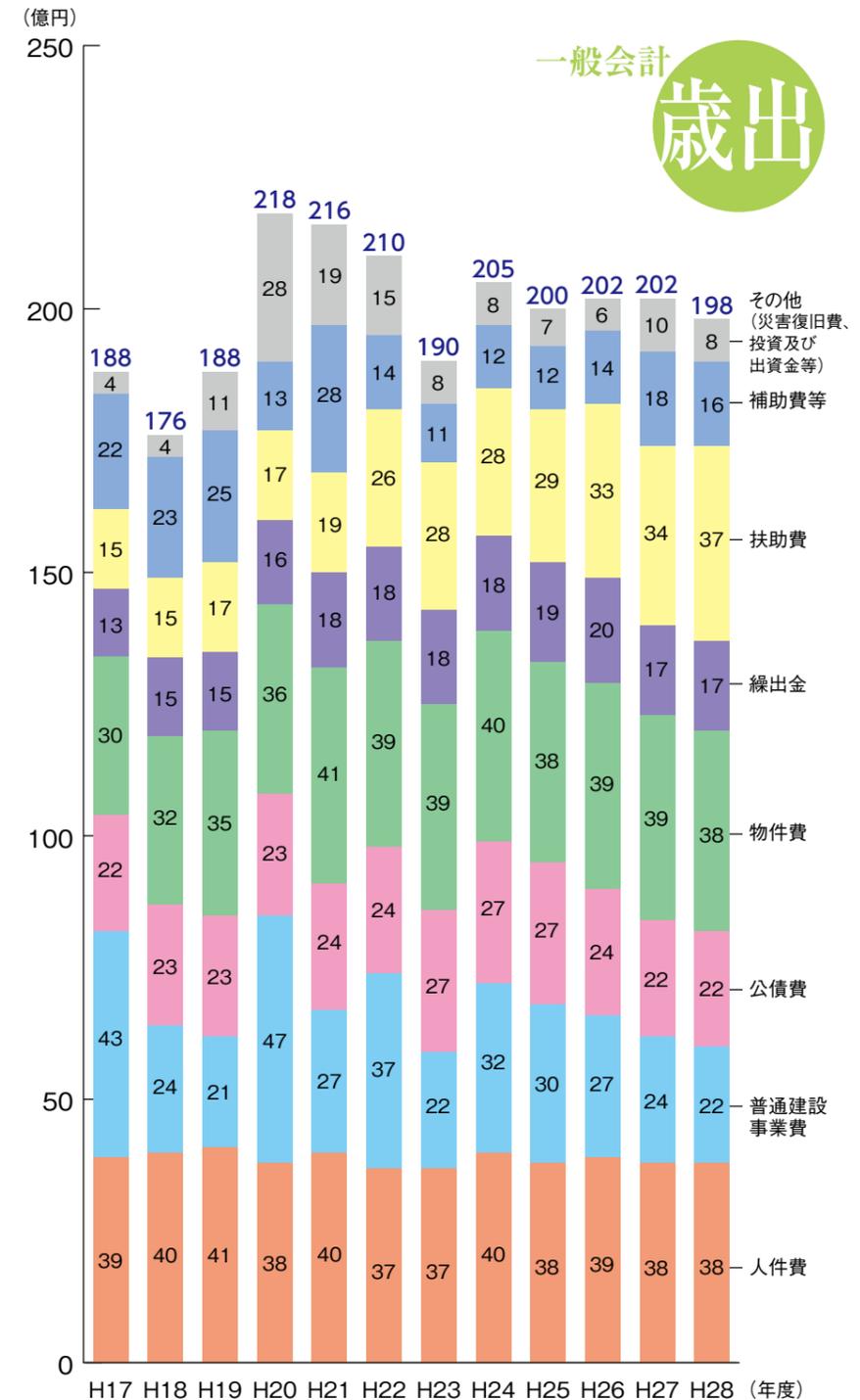
補助費等においては、公共下水道事業の企業会計化に伴う補助金の減により、前年度より2億円減の16億円となりました。

また、その他の経費中投資及び出資金においても公共下水道事業の出資金の減により前年度より2億円減の4千万円となりました。

普通建設事業費については、前年度より2億円減の22億円となり、主な事業として、野村布気線整備事業、し尿処理施設長寿命化事業に取り組んだほか、川崎小学校改築事業及び関の山車会館整備事業などの教育施設整備事業等の執行によるものです。

また、公債費(借金の返済)は、前年度並みの22億円となっています。

物件費については、前年度より1億円減の38億円となりましたが、歳出全体の約2割を占めていることから、引き続き、ごみ溶融処理施設や教育施設など各種施設の運営に係る経費削減を図る必要があります。



市税…市民税、固定資産税、たばこ税など 地方交付税…国税のうち市の取り分として交付されたお金 国・県支出金…国や県が市に対して支出したお金 市債…市が国や銀行から借りたお金 地方譲与税…国税・県税のうち市の取り分として譲与されたお金 使用料…市営施設の使用料など 繰入金…市の基金から引き出したお金

人件費…市職員の給料や議員報酬など 普通建設事業費…道路・学校・庁舎など、公共・公用施設の新築・改修に使ったお金 公債費…市債の元金・利子や一時入金の利子 物件費…光熱水費、消耗品費、業務委託料など 繰入金…下水道事業や介護保険などの他の会計への繰入金 扶助費…生活保護、障がい者支援、医療費助成など福祉に使ったお金 補助費等…報償費、負担金、補助金など 災害復旧事業費…大雨、暴風などの災害により被災した設備を復旧するためのお金 投資及び出資金…財産を有利に運用するための投資や他団体への出資金など